

今日で二学期が終わり、短い大切な意味を持つ冬季休業日が始まります。

今年四月からの生活を振り返りながら、将来の進路をしっかりと見据え、来年、そして来年度に発展的につながっていく充実した毎日を送っていただきたいと期待しています。

特に、高校3年生の皆さんは、本当に大切な時期ですので、健康に注意し、将来の目標達成のために、しっかり頑張っていたいただきたいと思います。

さて、百十余年の輝かしい歴史と伝統をもつ本校ですが、この10年の間には、

平成11年度の岡山市内5校総合選抜制度の廃止に端を発して、それぞれの学校が特色づくりに取り組む中、平成十四年に県下初の県立中学校を併設するという大きな変革を経験しています。来年は、岡山操山中学校開校十周年を迎えます。

そういう節目の時ですから、これまでの経過を振り返りながら、生徒の皆さんに是非しっかりと意識し、これからの取組の参考にさせていただきたいことを申し上げます。

操山中学校開校当時、公立全日制の併設型中高一貫教育校は、秋田県、香川県などに1、2校しかなく、生徒募集の在り方、教育目標の設定、教育計画の立案をはじめ、ほとんどが新しいことばかりで試行錯誤の連続であったとお聞きしています。

これまでの教職員・生徒の皆さんの努力、そして、それを受け継いでいる現在の教職員・生徒の皆さんのかいあって、中・高を一貫した「日本や国際社会に貢献する高い志」「確かな学力」「豊かな心」を育成するという教育理念に基づき、『未来航路プロジェクト』における特色ある学習内容の体系をはじめ、高等学校1年段階では、ミックスホームルームにおいて、新たな出会いによる仲間意識の高揚が図られるなど、開校当時の制度設計の基本は、いささかも変更されることなく、大きな成果を収めています。

何が大きな成果かという、皆さんは、学校生活の様々な場面で、実に積極的・意欲的に学習活動に取り組み、互いに時と場合を意識しながら、互いに高めあい学びあう姿勢を大切にしている。

その結果、本校は、県内はもとより、全国的にもたいへん評価の高い学校として認められ、他の学校や教育委員会などから年間五十件にもものぼる多くの学校訪問がありますが、優れた先生方の指導のもと、操山中学校、操山高校の生徒の皆さんが真剣に学び、生き生きとして活動する姿に、おいでになった方々が感激しておられます。

また、本校生徒の皆さんが、修学旅行はじめ校研修で、様々な大学や教育機関などを訪問した際に、お世話になった方々が、生徒の皆さんの礼儀正しさ、目的意識の明確さ、探求の熱心さなどなど、多くの素晴らしい点に感銘を受けたとの感想を、たくさん寄せて下さっています。

このような、生徒の皆さんの充実した学びの様子から見ても、時代の先駆けとなる優れた教育理念のもと、発展の道を着実に歩んでいる本校ですが、先生方も、生徒の皆さんも学校を巡る変化に適切に対応しつつ、本校一層の発展のために不断の努力を重ねていくことが求められます。

特に、本校生徒の皆さんにとって大切なことは、他の高校でも同じことが言えるのですが、併設型中高一貫教育校として、高校1年生の段階で、新しい友との出会いによる視野の拡大と自己啓発を進め、真の「操山ファミリー」と呼ぶにふさわしい仲間づくりを実現していくことです。

様々な個性、価値観や発想、学習スタイルを持った君たちが、課題を見つけ、よりよい解決を目指して互いに自己の考え方をぶつかけたり、時には侃々諤々の議論もしながら、切磋琢磨し、努力する過程にこそ、大きな成長や発展があると考えます。

『貞観政要』（唐の第二代皇帝「太宗」と家臣団との政治的な問答を収録した書物）の中に、有名な「創業と守成」の話があります。

唐の「太宗」は、後生の人々から「貞観の治」とたたえられる政治を行い、唐の国を世界帝国に発展させた名君と言われる人物です。

隋の後を受け、多くの戦いを経て、お父さんの李淵を助けて唐の国を建国した太宗は、ある時、手柄のあった家臣たちに、「建国（創業）の時と、できた国を維持・発展させる（守成）のと、どちらが難しいか」と質問したことがありました。

若いときから太宗と行動をともにしてきた「房玄齡」は、創業の困難を主張し、太宗のライバルのブレンで後に太宗に従った「魏徴」は、守成の困難さを指摘します。

太宗は、二人の意見を聞き、それぞれの意見の妥当性を認めた上で、次の様に結びます。

「然れども創業の難きは征けり。守成の難きは、方に諸侯と之を慎まん」

本校にとっても、県立中学校設置という最近の大きな学校改革（言わば「創業」）をなし終えて、いかにその特色ある教育システムをより有効かつ・有意義に展開していくかという「守成」の大切な時期になっていると思います。

この『貞観政要』の話を思い出したのは、先週、高校1年生の皆さんがディベートを熱心に行う様子を参観させていただいたのが直接のきっかけでした。

異なる意見も大切にしながら、一つの方向を出していくその在り方に何か共通点を感じたことでした。

このディベートの活動発表は、一つの例に過ぎません。これからも《未来航路プロジェクト》をはじめ、特色ある教育活動を実践しているすべての生徒の皆さんが、リーダーシップとフォロアシップを発揮しながら、意見の違いや感じ方の違いを超えて、互いを認め合い、より高い次元の学び合いの集団として成長を続けて下さることを期待しています。

「操山ファミリー」の名のもと、生徒の皆さんのためならどんな労も厭わない先輩、同窓の方々をはじめ、諸先生方、生徒の皆さんが一体となり、発展的な「守成」をめざしていきたいものです。

終わりにになりましたが、本校には、百数十名にのぼる多くの教職員の方がおられます。年度中途の異動もあり、皆さんにお知らせすることができない場合もあったのですが、

午後の時間帯に、学校図書館の司書としてお勤めいただいていた「藤原まさみ」先生が、12月末日で退任されます。（ここで、ご紹介のみさせていただきます。）

以上で、二学期終業式の、私からのお話を終わります。